

第3学年国語科学習指導案

日時 平成16年9月6日(月) 5校時

児童 3年武藤学級 男26名 女14名 計40名

授業者 武藤 美由紀

1 単元名 場面の様子を想ぞうしながら読もう

教材名 ちいちゃんのかげおくり

2 単元について

(1) 児童の実態

子どもたちがこれまで学習してきた「読むこと」の教材は、「きつつきの商売」「ありの行列」「三年とうげ」の3つである。これらの学習の中で、日々の授業で大切に考え取り組んできたことは、次の4点である。

①自分の読み取りの根拠を言葉に求めながら言語意識を明確にし、学び方を身に付けること。

②会話文、言葉の比較による複合語や副詞の表現効果を取り上げて、言葉のもつ意味内容にとどまらず、文脈における言葉の意味を読み取っていくこと。

③接続語や繰り返しの語句に着目して段落ごとの意味のまとまりや文章の構成をとらえること。

④書かれている内容や場面の様子が読み手に伝わるように声に出して音読すること。

このような学習を通して、子どもたちには、徐々に読み取りの学び方を身に付けてきている。また、自分の読みを出し合い、友達と新たな読みを発見し読み深めていくおもしろさに気が付き始めている段階である。重要語句や中心文に目を向け、文脈に即して言葉の意味内容をとらえる力や、段落同士のつながりを見つける力、語感を感じ取りながら音読する力が身に付いてきている。

(2) 主たる指導事項

本単元の主たる指導事項は、「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと」である。そのために、子どもたちに、大きく次の2点の力を一層つけていく必要があると考える。

①大事な文や語句に着目しながら意味内容を読み取る力

②人物の性格や心情、場面の様子や移り変わり、情景を想像しながら内容を読み深めていく力

(3) 指導にあたって

教材文「ちいちゃんのかげおくり」は、空襲によって一人ぼっちになった幼いちいちゃんを通して、家族が一緒にいることの至上の幸せや平和の大切さを描いた物語である。

この物語は、「①家族全員とかげおくりをするちいちゃん」「②お母さんとはぐれてしまったちいちゃん」「③防空壕でお母さんとお兄ちゃんを待ち続けるちいちゃん」「④一人でかげおくりをするちいちゃん」「⑤平和になった町」の5つの場面に分けられる。

①の場面では、家族一緒の「かげおくり」を通して幸福感に満ちた場面の様子から、かげおくりの楽しさを知り、かげおくりを大好きになるちいちゃんの様子をとらえる。②～③の場面では、空襲によってひとりぼっちになるまでの様子や、孤独と不安に負けずに家族を心の支えにして家族をひたすら待ち続ける姿を読み取る。④の場面ではちいちゃんの言動を手がかりに、ちいちゃんが家族をひたすら待っている様子を読み取る。また、①の場面と対比しながら家族が再び一つになることの意味や家族の心のつながりについて考えさせたい。⑤の場面では平和になった町の様子を読み取り、平和の大切さや家族とともに暮らせることの幸せについて気付かせていきたい。

子どもたちは、物語の展開に沿ってちいちゃんに寄り添いながら読み進めていくであろう。それぞれの場面で、ちいちゃんの言動や様子を表す言葉に着目しながら、子どもたちはちいちゃん

の心情にもふれて読み取っていくであろう。さらに、場面ごとのちいちゃんの様子を想像したり比べたりするなど、場面と場面を関係付けて、ちいちゃんの心情を貫いている家族に対する思いへと読み深めていくようにする。よって、本教材は単元のねらいからみて適材である。

指導にあたっては以下のことについて配慮していきたい。

1点目は、子どもたちの関心を大切にしながら主体的な学習活動が展開できるよう、ちいちゃんや戦争に対して抱いた感想を共感的に受け止めていく。そして重要語句や中心文に着目しながら子どもたちが自分の読みをもつことができるよう、言葉と向き合う時間を位置付けていく。戦争という場面状況の把握ができるよう事柄の意味内容を正しくとらえたり、関係付けたり、ちいちゃんの様子や心情を想像したりする活動を位置付けて、全体で読み深め合うことができるようにする。

2点目は、場面ごとの内容価値を読み深めながら、国語の基礎・基本の力を身に付けていくことができるような学習展開を組んでいくことである。子どもたちの作品に対する印象は、戦争の残酷さや家族を失い命を落としたちいちゃんへの共感などが考えられる。ここでは、内容価値を戦争のみに偏らないよう、ちいちゃんをとりまく周囲の様子、ちいちゃんの言動や行動に視点をあてていく。具体的に、叙述を基に想像しながら読む力を身に付けるための手立てとして、この物語の場面展開の柱となっている「比べる」活動を中心に据えていく（場面と場面を関係付けるために場面を比べて読む、内容価値を深めるために繰り返しの言葉を比べて読む、言葉の使い方や表現の違いを比べて読むなど）。

3点目は、各単位時間の中に音読や書く活動を位置付けていく。これは1点目の主体的な活動や2点目の基礎・基本の定着に深くかかわっていく活動でもあるため、活動の意図を明確にして学習の中に組みこんでいく。

4点目は、第3次で物語の紹介文を書くことにより、自分の感想を明確にしながら広げたり深めたりする学習活動へと展開させていくことである。そこで、紹介文を書く必然性が子どもたちの中に生まれるような工夫をし、自分が紹介したい相手を選び、自分が紹介したいことを手紙形式でまとめさせ、本単元の学習のまとめとしたい。

3 単元の指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・ 「かげおくり」という遊びに関心を示し、進んでちいちゃんの心情や場面の様子を想像しながら読もうとしている。

(2) 読むこと

- ・ ちいちゃんの心情や場面の様子、情景を、叙述を基に想像しながら読み、自分の感想を広げることができる。(ウ)
- ・ 場面の様子がよく分かるように声に出して読むことができる。(カ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

- ・ 文章における言葉の使い方に気を付けて、理解するために必要な語句の量を増し、使い方の範囲を広げることができる。(エ)

4 単元の指導計画及び評価計画（全11時間）

学 習 活 動	具 体 の 評 価 規 準		
	関心・意欲・態度	読 む こと	言語についての知識・理解・技能
第1次 学習計画を立てる。(3時間)			
1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し、感想を書く。 新出漢字の学習をする。 場面分けをし、学習計画を立て、学習の見直しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感想を意欲的に発表したり友達の間で感想を聞いたりして、進んで学習計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題名について考え、場面の様子を想像しながら読むという読みの視点をもつことができる。
第2次 場面ごとに内容を読み深める。(5時間)			
4 5 6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> 家族みんなでかけおくりを楽しむ様子を読み取る。 お母さんとはぐれてしまったちいちゃんの様子を読み取る。 防空壕で待ち続けるちいちゃんの様子を読み取る。(本時) 一人でかけおくりをするちいちゃんの様子を読み取る。 平和になった町の様子を読み取り、主題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで重要語句を探したり、見つけたりして、ちいちゃんの様子を意欲的に読み取ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の使い方や、ちいちゃんの言動や周囲の状況を表す言葉などに着目して、ちいちゃんの様子を読み取ることができる。 場面と場面をつなぎあわせたり比べたりして、場面の様子や情景を想像して読み取ることができる。
第3次 物語の紹介文を書く。(3時間)			
9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> 物語について心に残った場面や自分の感想などの紹介文を書く。 紹介文を読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識をはっきりとさせ、自分が一番心に残ったことなど感想を意欲的に紹介しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をもとに感想や意見をまとめ、読み合いながらいろいろな感じ方があることに気付くことができる。 常体と敬体の違いに注意して自分の紹介文を書くことができる。

5 本時の指導

(1) ねらい

防空壕の様子やちいちゃんの言動や行動から、ひとりぼっちになった寂しさや不安な気持ちや、家族が帰ってくることを信じてひたすら待ち続ける様子を読み取る。

(2) 展開

学習内容と学習活動 (○ 発 問)	購	予想される児童の反応	教 師 の 支 援
1 前時までの学習内容の想起をする。	3		<ul style="list-style-type: none"> 1の場面で家族みんなでいたちいちゃんと、空襲によってひと

<p>(1) ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの状況を想起する。</p> <p>2 本時学習課題を確認する。</p>	3		<p>りぼっちになってしまったちいちゃんを比べ、突如状況が変わってしまった様子を想起する。</p>
<p>ひとりぼっちになったちいちゃんは、ぼう空ごうの中でどんなことを考えてねむっていたのだろう。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・本時学習課題に基づいて、ちいちゃんの言動やしたこと、ぼう空ごうの様子を読み取りの視点として確認する。
<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 学習場面を音読する。</p> <p>(2) ひとりぼっちになったちいちゃんの様子が変わるところを探す。</p> <p>○ひとりぼっちになったちいちゃんのしたことや言葉を探しましょう。</p> <p>(3) ぼう空ごうの様子を読み取り、家族の帰りを待つちいちゃんの気持ちを想像する。</p> <p>○ちいちゃんがねむったぼう空ごうはどんなぼう空ごうでしたか。</p> <p>○それでもちいちゃんがぼう空ごうの中でねむったのはなぜか、ノートに書きましよう。</p>	2	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少し食べました。 ・こわれかかった暗い防空壕の中でねむりました。 ・「お母ちゃんと〜きつと帰ってくるよ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りの視点に気を付けながら学習場面を音読する。 ・ちいちゃんのしたことやがわかる部分にサイドラインを引かせる。 ・子どもたちが探した文を黒板に位置付けていくが、本時のねらいに最も迫ることのできる教科書13ページ4行目のちいちゃんの言動を視写する。
<p>(4) 次の日もぼう空ごうの中で待ち続けるちいちゃんの様子や気持ちを読み取る。</p> <p>○「食べました」と「かじりました」ではちいちゃんのどのような様子がわかりますか。</p> <p>○ひとりぼっちで体が弱ってきていても、ちいちゃんがぼう空ごうにいたのはなぜでしょう。</p>	17	<p>10</p> <p><具体的評価規準></p> <p>A；防空壕の様子とつなげて母と兄を待ち続ける心情について書いている。</p> <p>B；母と兄に会いたい気持ちで必死に待ち続けているちいちゃんの様子を書いている。</p> <p>Cへの手立て；ちいちゃんを取り巻いている状況や場面展開を教師と確かめながらまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼう空ごうの様子について「こわれかかった」「暗い」に着目し、ちいちゃんの不安な気持ちや心細さを想像させる。 ・ぼう空ごうにいる理由について、自分の読み取りをノートにまとめさせる。 ・ノートにまとめた自分の考えを発表し合い、その理由と視写文とを結び付けて待ち続けるちいちゃんの様子をとらえることができるようにする。 ・読み取ったことをもとに、子どもたちの読みの深まりを音読で表現する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・食べる力も無いくらい弱っている。 ・ちいちゃんは体が弱っていても、お母さんとお兄さんに会えることを信じていたから待ち続けた。 ・寂しくてもそれに負けないで大好きな家族に会いたいと強く思っていたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間経過と重ねながら「食べました」と「かじりました」を比較し、ちいちゃんの衰弱している様子を読み取る。 ・衰弱し、不安で心細い中でも、必ず帰ってくると信じて待ち続ける一方で、衰弱しているちいちゃんの様子を読み取っていく。 ・ちいちゃんにとって一番大切なものは家族であり、家族と一緒にいたいと心から願っていることを読み取る。

<p>4 本時学習のまとめをする。 ○今日の学習で、分かったことを発表しましょう。</p>	<p>3</p>		<p>・視写文を音読し、本時の学習のあゆみを振り返る場を設け、子どもたちの読み取りの視点のよさや深まりを称賛する。</p>
---	----------	--	---